

平成16年 敬老作文集

敬老作文コンクールの入賞者の表彰と最優秀賞を受章された方からの朗読発表が、今年も敬老式会場で行なわれました。

今年は井川小学校二・五年生、井川中学校二年生から合わせて一七〇点の応募があり、それぞれ最優秀賞一点、優秀賞二点、優良賞二点の計一〇点が入賞しました。入賞された方々の敬老作文をご紹介します。

小学校の部

最優秀賞

わたしの自まんのおじいちゃん

五年二組 三浦 千紘



わたしのおじいちゃんは、現在、目が不自由で、耳もあまり聞こえません。しかし、わたしのお父さんが二十才のころは、目は見えていたそうです。

若いころのおじいちゃんは、とても絵がじょうずで、作文を書いたり、工作を作ったりすることもうまかったです。あまりの工作好きに、自分で家を建てたいと、思うほどだったそうです。

おじいちゃんのこと、自まんで

きることがいっぱいあります。

一つ目は、がんばる心、努力する心があるということです。

前に、木に穴を開けようとして手をすべらせてしまい、点字を打つはりのようなもので手をきずつけてしまいました。血があふれるように出てきても、気にしないでやっていました。そんなおじいちゃんを見てみると、がまん強く、がんばり屋さんだと思います。わたしなら、パニックを起こして泣いてしまうかもしれません。

二つめの自まんは、いつも元気で健康だということです。

おじいちゃんは、朝四時半ころ起きて、い間で体そうをします。冬になると、うがいをかかしません。いつも健康によいことを進んでしているので、元気なのだと思います。

三つめの自まんは、中学校の校章を考えたのは、わたしのおじいちゃんなのです。中学生になったら毎日、見ることができるので楽しみです。

わたしの自まんのおじいちゃん、朝は元気にあいさつをし、昼に

ふろに入り、夜の八時半ころねます。そんなおじいちゃんの生活ぶりを見習って、わたしも健康で、いろいろなことをがんばって生活したいと思っています。

おじいちゃん、これからもずっとと元気で「わたしの自まん」でいてください。



優秀賞

おじいさん、おばあさん
いつもありがとう

二年一組 大山 葉子



おばあさん、いつもおかしやさ
い、つけものをもってきてくれてあ
りがとう。わたしは、おばあさんの
作るおいしい魚のたまごのふりかけ
がとっても大好きです。また作っ
てほしいなあとおもっています。

お休みの日、おじいさんはうえ
木の手入れや草むしりをしてくれま
す。おうちがとってもきれいになっ
て、

「ありがとう。」

ってわたしがいったら、

「どういたしまして。」

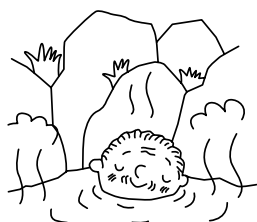
ってわらって答えてくれました。わ

たしは心の中でいつもありがとう
ておもっているんだよ。

でも、いつもおじいさんは、おし
ごとばかりだからお話があんまり
できないので、ちよつとさんねん
です。もつとゆつくりと、おじいさん
とお話したいです。それからむ
りをするときもあるかもしれないの
で、ちよつとしんぱいです。

おじいさんとおばあさんと、お
うちのみんなでよく場とかおんせ
んにいったときは楽しかったです。
ちよつとはなれてすんでいるから、
いっしょにおふろに入ったりする
こともあまりないのでとても楽し
かったです。また、みんなでりょこ
うにいききたいなとわたしはおもっ
ています。

おじいさん、おばあさん、いつま
でも長生きして、またいろいろなと
ころにいこうね。



私のおばあさんとおじいさん

五年一組 伊藤 愛理



私のおばあさんとおじいさんは
いつも朝早くおき畑に行きます。畑
にはいろいろな野菜や果物が植えて
あります。私はその中でもトマトと
きゅうり、いちごが大好きです。畑
からもってきた野菜はどれももぎ
たてでとてもおいしいです。私はこ
んなにおいしい野菜や果物ができ
るのは、おじいさんやおばあさんが苦
労して育てているおかげだと思いま
す。

休みの日になると、お昼ご飯はい
つもおばあさんと私で作ります。お
ばあさんは、よくチャーハンを作り
ます。その時はいつもご飯にバター
をまぜて作ります。バターを入れる
とご飯がうまくかたまって、きれい

な形にできるとおばあさんが言っ
ていました。私は、おばあさんの作る
料理を見て、いつも勉強になってい
ます。私は大人になったらおばあさ
んから学んだことをいかして、いろ
んな料理を作ってみたいです。

おじいさんは、自分でかっている
にわたりのせわや庭に植えている花
や木のせわをしています。おじいさ
んが育てている花の中でつばきが一
番きれいです。木の中では、松の木
がすごいです。おじいさんが水やり
などをして育てているせいか、私の
せよかなり高いです。ほかにも、い
ろいろな種類の木や花などが植えて
あります。どれもとてもきれいで
す。にわとりはいつも元気に、コケ
コツコツとないています。おじい
さんは、私からみると、生き物のせ
わがとても上手だと思っています。三
年生のころからかっていたハムスター
は今は死んでしまっただけで、2年間
生きました。それはたぶん、私がせ
わをわすれていた時におじいさんが
水やえさをやってくれたからだと思
います。私は色々なことをしてくれ
るおじいさんとおばあさんが大好き

です。

これからも体に気をつけて、畑仕事など色々なことが元気で楽しくできるように、長生きして下さい。本当にいつもありがとうございます。

優良賞

やさしいおじいさん

二年一組 勝又 樹里



わたしのおじいさんはいつもやさしいおじいさんです。

車をうんでんして、どこでもつれていってくれたり、海や川につれていってくれます。いっしょに海や川に行ったときは、おじいさんは、つりをしています。わたしはまわりであそんで、魚がつれるのをまってい

ます。おじいさんは魚がつれると、

「うれしいなあ。」といいます。

わたしはそれを聞いて、よかったねって思っています。たくさん魚がつれるとおじいさんもうれしいんだなと思って、わたしもうれしくなつてきます。

おじいさんは、おうちではいつもいろいろなおしごとをしています。おうちの中であまりおじいさんとお話することはないけれどおしごとがいそがしいのでしかたがないよね。でも、いつもしごとばかりしているの、つかれているのではないのかな。わたしはともしんばいです。とつぜんたおれたりしないですね。みんながかなしむから、むりはしないでください。

おじいさん、ずっと元気で、またいっしょにドライブしようね。海や川でもつりをしようね。



おじいさんとおばあさんへ

五年一組 武埴 美波



おじいさんとおばあさんは、とても働きものです。会社が終わってからも、田んぼに行ったり、畑に行ったりして暗くなるまで、がんばっています。私が、「そんなに働いてつかれないの。」と、聞くと、おじいさんとおばあさんは、「美波の顔を見ると、つかれなんかふつとんでしまふよ。」と、言ってくれました。本当にすごいなあと思います。

おばあさん、お母さんが、会社の人に、いっしょに、遊んでくれましたね。おばあさんと遊んだ遊び、本当に楽しかったよ。どうもありがとうございます。

おじいさん、私のたん生日の時、たん生日プレゼントをいっぱい買っ

てくれましたね。それと、びつくりしたのは、おかしとかジュースをおどろくくらい、たくさん買っておいでくれたことです。いつも、私のことを、楽しませてくれる、おじいさんとおばあさんが大好きです。

ちっちゃいばあさんには、幼稚園のころからずっといっしょに遊んでもらいました。ちっちゃいばあさんとは、ひいばあさんのことです。今年で八十三才になりますが、とっても元気で畑仕事もしています。

私は、小さいころいたずらっことで部屋の中をちらかし放題にしています。でも、ちっちゃいばあさんはおこらないで、笑いながら、「いい、いい、後でかたづけるから。」と言ってくれました。そんなやさしいちっちゃいばあさんが私は大好きです。

私が大きくなったら、おじいさんとおばあさんとちっちゃいばあさんを、旅行に連れて行ってあげたいと思います。

いつまでも、体に気をつけて、長いきしてください。

中学校の部

最優秀賞

おじいさんとおばあさんは

一生の宝物

二年 湊 倫成



僕の家族は、六人家族でした。突然おじいさんが事故で亡くなりました。その時は学校で授業を受けていました。先生から連絡があり、突然おじいさんが亡くなったと伝えられ、急いで家に向かいました。家ではみんなが待つていました。近所の人に聞いた話によると、おじいさんがおばあさんを眼科につれて行った帰りに車が横からぶつかってきたそうです。おばあさんは少し首を痛めました。おじいさんは、あばらが全部折れてしまい、肺にささって呼吸

ができなくなり亡くなりました。急に連絡があった時は、本当に驚きました。

おじいさんが亡くなる前は、僕はいつもおじいさんの手伝いをしていました。田植えではおじいさんが機械に乗って、おばあさんは機械が植えられる所に植えて、僕は苗箱の板を川で洗う役でした。おじいさんは僕が手伝うとおこづかいをくれました。僕は、そのおこづかいも楽しみました。おじいさんとおばあさんは僕が手伝いをする、とても喜んでくれました。二人が喜んでくれると、僕もとてもうれしかったです。秋に稲刈りをするときも家族みんなで手伝いました。みんなが手伝うと、二人はとてもうれしそうでした。僕も二人のために頼まれた仕事は一生懸命にやり遂げました。おじいさんとおばあさんを喜ばせたい一心で僕は一生懸命手伝いました。僕にとっておじいさんとおばあさんは一生の宝物です。

おじいさんがいなくてもこれまでと同じようにみんなで助け合い、みんなで解決し合う家族でいたい

す。

もう、おじいさんに会えませんがいつも僕を見守ってくれていると思います。おじいさんに心配をかけないように、僕も一生懸命がんばりたいです。

優秀賞

「元気の源」それはどこから？

二年 三浦 賢利



僕の家族の中で、ばあさんが一番有意義で元気な生活を送っていると思います。今年でもう七十歳。僕が幼稚園児だった頃はまだばあさんを見上げていました。でも、今ではもう僕の方が大きくなり、ばあさんの

頭分の身長差にまでなっていました。ですが、ばあさんの元気は少しも、昔と変わりません。

すぐに思い浮かぶのは、なんともいってもあのすばらしい声です。毎朝僕が寝坊しないようにと自慢の声で「賢利ー。起きれー。」と、二階の僕の部屋まで聞こえるように叫んでくれます。また、電話に出た時も、身が引き締まるような声で応答してくれます。この声がばあさんのいい所の一つだと思います。

夕食を食べる時には、ばあさんが育ててくれたさるいっぱいの枝豆を食べます。するとばあさんが「うめがあ。」と聞いてきます。僕が「とてもおいしい。」と言うと「じゃあ、まだいっぺえ採ってくるなあ。」と、うれしそうに言うてくれます。

なんといっても、ばあさんの「元気の源」それは、グランドゴルフです。日々、友達を誘い国花苑へ行き、楽しんでいます。今では大会などがあれば、ほとんど入賞してくるほどの腕前になりました。

一年くらい前に、一緒にグランドゴルフをやりましたが、ばあさんに



圧倒的なスコアで負けてしまいました。「やっぱ、ばあさんは強いな。」と言うと、ばあさんは「そりゃ毎日やってるからわけもの（若者）には負けねえ。」と、楽しそうに言っていました。

ばあさんの「元気の源」は、グランドゴルフだけではないと思います。他にもばあさんの「元気の源」は、たくさんあると思います。それを、どんどん見い出してくれたらいいと思います。最近では、足腰があまり良くなさそうなので、無理をせず毎日を元気に過ごしてください。そして、これからもよろしくお願いします。

祖母への想い…

二年 斎藤 悠希



私の家では、両親共働きで、夕ご飯やその他、多くの家事のほとんどを祖母がやっている。

学校が終わり、家に帰ると、いつも忙しそうに夕ご飯の準備をしている祖母。私が帰る前にも、洗濯物をたたんだり、赤沢にある、以前住んでいた家に行き、畑仕事をしたりしているそうだ。

その点私は、自分で食べた食器を洗うだけで、手伝いといえる手伝いも、なにもしてあげていない。

その上、なにか注意されると、すぐに不機嫌になり、キツくあたってしまうことが多い。少しでも負担を減らせるように、目を配らせないといけないのは、一番一緒にいる私な

のに、だ。

しかし、祖母はただ忙しいだけ、という訳ではない。祖母は、近所付き合いも良く、朝「温泉行かねが？」などと、電話がかかってくることも多い。そういうところでは、楽しんでいるところもある。

いつも忙しそうに働いている祖母を、いろいろなところに連れていってくれている、近所の方々には、とても感謝している。

老人どうしで、いつも楽しそうにしているのを見ると、老人は楽なのかもしれないと思うこともあるが、家での祖母を見ると、あまり、そういう風に思えなくなってくる。

祖母の負担を減らすためには、まず、自分でできることを全てやり、祖母の仕事となってしまうと、洗濯物をたたんであげることが必要だと思ふ。

おばあさん、いつも負担をかけてしまつてごめんなさい。これからは、元気で長生きできる、より良い環境をつくれるようにがんばるからね。

優良賞

僕の力の源

二年 椎名 和紀



僕が、とても大好きなのは、おじいさんとおばあさんです。住んでいる所は、若美町なので、たまにしか会う事ができません。

でも、僕達が会いに行くといつも笑顔で、僕達を迎え入れてくれます。だから、そんなおじいさんとおばあさんが大好きです。おじいさんとおばあさんは、農家なので、毎年稲刈りの時期になると、手伝いに行きます。そうすると、いつものように笑顔で迎え入れてくれます。そして、一日の作業が終わると、

「ありがとつ。また、おねがいす

毎朝の出会い

二年 草階 亜梨沙



るね。」と言って喜んで、僕達におこづかいをくれます。僕は、手伝う事があたり前の事だと思っていたので、感謝されるのがとてもうれしくなりました。僕はおこづかいをもらい、僕の方が感謝したいくらいでした。

そして、僕達が帰る時には、必ず家の外に出て手を振っています。ぼくは、

「また来るからねー。」と言って帰って来ます。家に帰って来ると、なぜか淋しい気持ちになります。そして、数日しかたっていないのに「おじいさんとおばあさんは元気かなー、何しているのかなあー。」と、思ってしまうです。

離れているけれど、心はつながっているし、いつも心の中にいてくれることが、僕の力の源となっていました。

「おじいさん、おばあさんいつも、いつも僕たちの力になってくれてありがと。そして、これからも僕達の事を見守っていてください。おじいさん、おばあさんずっと元気でいてください。本当にありがと。」

私は中学校に入ってから、毎日学校に来る時、必ずと言っていいほど、毎日あいさつをするおばあさんがいる。毎朝一生懸命、何かを運んでいるおばあさんだ。何を運んでいるかは、よくわからないけど、友達がかかるには、野菜や豆腐などを運んでいるということだった。

毎朝「おはようございます。」と言うと、元気に「おはよう。」と、笑顔で返してくれる。毎朝顔を会わせているから、お互いに友達のようになったと思う。直接話した事はないけれど、ほぼ毎朝「あいさつ」という会話をしている仲だ。

おばあさんの名前も、どこに住んでいるのかもわからないけど、学校

に来る朝、もしそのおばあさんに会わないと、自分の家族のように心配すると思う。その日が、何日も何日も続くと、不安になると思う。

だから、そのおばあさんには、けがとか病気とかになって欲しくないし、困っている時は、出来るだけ助けたいと思うし、話してみたいとも思う。

元気で笑顔のいい、やさしいおばあさん。これからも、いつものように、一生懸命仕事をがんばってね。いつもいつもご苦労様。大変だと思うけど、おばあさんの存在は、かけがえのないものだと思うよ。この先も、けがや、病気などに気を付けて、いつも通り元気にあいさつしてね。私も、負けないくらい元気にあいさつするから。

長生きしてね。

